

物理学者の楽しい自慢話

しかの つかさ 鹿野 司 サイエンス・ライター

ぼくが最高に気に入っている物理学者を、何人か挙げるなら、筆頭にディラック、ボーア。そして、ファイマンがくる。

ファイマンの凄さは、物理の本質を直感的に見抜く目と、それを我々に分らせてくれる能力を備えていることだ。

優れた物理学者なら、前者の要素は不可欠といっていい。だが、後者の能力まで備えている人には、なかなかお目にかかれない。

大学時代に読んだ、「ファイマン物理学」(岩波)は、ほんと楽しかったなあ。この本は、数式を使わずに、物理の本質を直接掴み取らせてくれた。物理に興味のある人なら、一度は読んでみるべき本だと思う。高校生にだって、読めるしね。

さて、この「ご冗談でしょう、ファイマンさん」は、こうしたファイマンの、物理学者としての側面というより、彼自身の日常を振り返って、綴ったエ

ッセイ集だ。

この本の内容を、一言で表現するなら、「老人の自慢話の寄せ集め」といえる。しかも、いや

ってほどのアメリカ人の、ファイマンの自慢話だから、パタ臭くてくだいことといったところか、それがとてつもなく面白くて、カッコいいのだ。

これはもう、ひとえにファイマンの人柄、としかいいようがない。実際、このノーベル賞受賞者は、ほんとにトンデモナイヤツなのだ。

世界中、至るところで女の子と寝まくり、あらゆる権威に文句をつけ、世界初の原子爆発の光をただ一人肉眼で目撃し、ドラムと絵画をこよなく愛して、希代の金庫破りでもある。そのほか、この人の武勇伝を数え上げたらきりが無い。

ファイマンの日課は、トップレス・レストランの片隅で、店のオヤジのおごりのセブアップを飲みながら、紙のテーブ

「ご冗談でしょう、ファイマンさん」
ノーベル賞物理学者の自伝



R.P.ファイマン著
大貫昌子訳

「ご冗談でしょう、ファイマンさん」
R.P.ファイマン 著 大貫昌子訳
定価各一八〇〇円
岩波書店 〒一〇一 東京都千代田区一ツ橋二一五五 ☎(03)265-4111

ルマットに物理の式を書きつけることだ。オヤジが飲み物をオゾるのは、彼の店が裁判ざたで潰されそうになったとき、ファイマンが筆頭に立って、トップレス・ショウは地域に必要な

と主張したことによる。こんな物理学者が一人でもいるかと思うと、世の中が本当に面白く見えてくる。この一冊で、ファイマンに、より一層惚れてしまったよ。

担当編集者よりひとこと

岩波書店編集部 桑原正雄さん

この本との出会いの経緯は、なかなかおもしろい。実はファイマン教授の他の本の翻訳を検討していた。しかも、訳者はファイマンのご指名だった。その訳者の大貫さんが見本訳として送ってきた別の原稿を読むと、これがたいへんおもしろい。何はさておきこちらが先だと決めたのがこの本だった。翻訳も、教授のお眼鏡にたがわず、彼のざっくばらんな調子がよく出ていると思う。子供のPTAで著者と訳者が知りあったことといい、何か不思議な縁ではある。

数理的なもののみかたを教える

ほそやはるお 細矢治夫 お茶の水女子大学理学部教授

世の中には、理科系・文科系というおかしな分類があるが、どちらか一方が好きだからというよりは、拒否反応や消去法できまる場合が圧倒的に多い。

その理科系の中にも数学嫌いや数式嫌いがかなりいる。

だから「卵はなぜ卵形か」という質問にとびついては来ても、「生活の中に数理を見る」という副題を見て逃げ出す人が出てもおかしくはない。

この本の著者は、大手の計算機メーカーに勤めるかたわら、数学嫌いの夫人から数学アレルギーをなくそうという涙ぐましい努力を結晶化させた「生活の中の数理」を数学の啓蒙雑誌に永年寄稿していることで知られている。

最近は大阪経済大学の経営学部に移られた。理系とも文系ともつかぬ学生に、数学が物理のユニークな講義をしておられることであろう。

著者の発想はまことに豊か

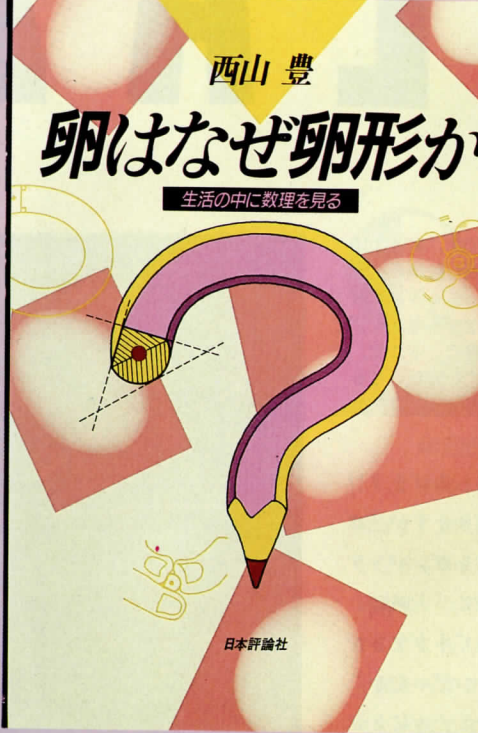
ある。

娘さんに買ってあげた図鑑や絵本から鳥の卵の形に興味をもつ。坂を転げ落ちないための条件を方程式にたてて卵形の曲線の式を求める。卵形を描くための雲形定規とコンピュータの優劣を議論する。鳥の身体の輸卵管の中で卵がどうできるかを調べる。更にダーウィンの進化論にまで話がひろがる。

著者の興味は、編みものや洗濯という家事全般にまでひろがっているが、必ず他の問題とのかかわりを求めている。

洗濯機の中のゴミを集めるくず取り網の原理から、海面に流れ出た重油の回収法を探る発想は鋭い。ペンでこのできない鉛筆を考え出して、メーカーにはたらきかけ、一獲千金をねらったが、失敗した話が、一番面白かった。

本書には数式がかなり出て来るが、式を追いたくない人は追わなくてもよい。著者の話術に



卵はなぜ卵形か
西山豊 著
定価一四〇〇円
日本評論社 〒一六〇 東京都新宿区須賀町一四 ☎(03)341-1616

引きこまれてただついて行くだけでも必ず何か収穫があるはずである。

本書はそういう本である。続編を期待したい。

担当編集者よりひとこと

日本評論社「数学セミナー」編集部 亀井哲治郎さん

西山先生が、サラリーマン時代、気づいた日常現象をいろいろ整理し考察したことをまとめたものが本書です。そのきっかけは投稿原稿で、ある見ず知らずの方からの原稿が面白かったので、「数学セミナー」に掲載しました。実はそれ以来の、西山先生とのつきあいなんです。

雑誌掲載分で本書に入れなかったものもたくさんありますし、第2集を考えています。それ以外にも、日常を数理のメガネでのぞく本を出したいですね。

立体で見る 星の本

杉浦康平 北村正利 著
定価 2000円 福音館書店
〒113 東京都文京区本駒込6-6-3 ☎(03)942-2081
5等星までの全天の星と球状星団、銀河系外星雲、約2600個をとり上げ、6段階の距離で立体化。星座絵などの情報も盛りこまれている。遠い星もあれば近い星もあることが視覚的に体感できる。

数学近未来

森毅 構成・演出
定価 1500円 培風館
〒102 東京都千代田区九段南4-3-12 ☎(03)262-5256
14のsceneと14のmonologueで構成され、sceneでは、14人の学者がそれぞれに数学を語る。数学という世界を外から眺め、ときに数学にかかわる人達と司会者ともいべき森毅とが数学の未来を占う。

新星座早見 改訂版

日本天文学会 編
定価 1000円 三省堂
〒101 東京都千代田区三崎町2-22-14 ☎(03)230-9411
昭和32年に発売されてから、多くの人々に親しまれてきた星座早見。金属盤から塩化ビニール製になり、軽く美しくなった。また、天文学会の最新研究データをとり入れ、情報量も増え見やすい。

極低温と超電導

永野弘 著
定価 1600円 啓学出版
〒101 東京都千代田区神田神保町1-46 ☎(03)233-3731
絶対零度への道のりでもある気体液化の方法と液化装置の発展について解説し、極低温下で起こる奇妙な変化、とくに超電導現象とその応用を中心に解説する。

超電導 スーパーテックへの突破口

YOMIURI SCIENCE®
太刀川恭治 戸叶一正 著
定価 1200円 読売新聞社
〒100 東京都千代田区大手町1-7-1 ☎(03)242-1111
マイナス270度近い極低温の環境で、突然、電気抵抗がなくなり、電流が半永久的に流れる現象が発見された。この発見が人類の明日のスーパーテクノロジーのカギを握る。



「ハートウェアのすすめ」ブルーバックス

ハード・ソフト設計法の再検討
土屋和夫 著
定価 620円 講談社
〒112 東京都文京区音羽2-12-21 ☎(03)945-1111
ハード、ソフト、の中から良い物を選び、作るにはどうするか? これからは使う人に「使ってみたい」という気を起こさせなければならない。そのため設計思想の転換として「ハートウェア」という新鮮な視点を提示する。



任天の秘密

上之郷利昭 著
定価 1000円 現代出版
〒160 東京都新宿区西新宿3-3-11 ☎(03)342-9984
昭和58年に発売以来、8ビットの小さなコンピュータは、すでに650万台が一般家庭に普及し、その勢いはとどまることを知らない。その名は「ファミリーコンピュータ」。今や高度情報化社会の中核マシンになろうとしている。

問題94

13	14	15	16
9	10	11	12
5	6	7	8
1	2	3	4

↑

A	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□

問題93

13	14	15	16
9	10	11	12
5	6	7	8
1	2	3	4

13	14	15	16
9	10	11	12
5	6	7	8
1	2	3	4

1/2の答え (問題133へページ)